



# Nepal Blind Support Association

ネパールの視覚障害者を支える会(NBSA)会報

第 26 号 2010 年 3 月

NBSA : <http://NBSA.sakura.ne.jp/>、

主内容：トリスリー川に遊ぶ/活動報告/私も NBSA のボランティア/近世と現在のネパールの政治/  
冬のインドひとり旅/ネパールの民話/編集後記/事務局便り



写真上：トリスリー川に遊ぶ 4 人の視覚障がい者の先生

写真下：まだまだこういういい感じがのこる先生たちのアップ

2 年前に大学を卒業し、国語の先生になった仲間がいます。そのうちふたりは日本人が奨学金を支給し、良い成績で卒業。みなそれぞれ、別々の地域に転勤していますが、長い休みにはこうして訪問しあって、いつまでも変わらぬ友情を温めています。素晴らしい青春の日々を懐かしみ、また学生時代に戻ったように思わずはしゃぐ姿。明日からまた授業が待っている、ネパールの視覚障がい者の先生たち。一時仕事を忘れて英気を養う。学生時代の友情がいつまでも続くよう願っています。



**活動報告 10月:** 恒例のカセットテープの編集と貸し出しのほか、点字情報誌のタッチ 18号の発送。ぜひともダサイン祭の前に仕上げようと、朝7時から編集作業をする時もありました。いまだに計画停電が実施されているので、電気が来る時間帯を狙っての作業です。また、NBSAの事務所は一般的な住宅地にあるので、早朝や夜間は騒音を出す点字プリンターが使えません。何かと不便な条件下で作業するのは容易ではないのですが、情報誌を心待ちにしている読者を思うと、なんとなくパワーが湧いてきます。カセットテープ事業の方は、ダサイン前に小説などを借りに来た人が多かったのですが、まだ返却されていません。貸し出し期限は原則的に2週間。このあたり大変ルーズですね。

#### ティハール休暇

NBSA カトマンドゥ事務所の休みは、原則的に政府の休みに基づいています。10月17日から10月19日まで休館しました。

**11月:** 定例のカセットテープ事業。大型連休のダサイン祭とティハールが終わりましたが、帰省の学生がさっぱり戻ってこないで、作業をゆっくりと行いました。ここ数ヶ月前から、従来の小説の音声化のほか、大学生の教材も録音をしています。NBSAは社会啓発も呼びかけていて、大学の授業で必要な教科書はできるだけ、学校側で手助けする、もしくはクラスメートにお願いするよう学生に指導していますが、どうしても協力を得られない、または頼みにくいと言う声がよく出ます。そこでやむなく、教科書の音声化も行うようになりました。何とか学校側の援助がほしいものです。

**12月:** 定例のカセットテープ事業と点字情報誌タッチの編集と配送

#### その他の活動 国際障がい者デーを祝う

12月3日恒例の国際障がい者デー、記念パレードと集会に参加

今年の国際障がい者デーは、なんとも詫びしい小規模なものでした。世相を反映してか、動員数も少なく、仕出しの弁当も例年よりぱっとしませんでした。女性児童社会福祉省の大臣を主賓に迎える予定でしたが、当日になってドタキャンされ、副大臣が代わりにスピーチ。障がい者福祉事業に力を入れる計画があると述べました。視覚障がい者への福祉事業では、省内にトーキングライブラリーを設置する予定との事ですが、施工はいつになるなど具体的な話はできませんでした。今回のスローガンは障がい者のミレニウム宣言の実現、大人も子供も障がい者と共に生きること。前列の人たちがいきなり踊りだし、パレードに時間がかかりました。

写真左：ネパール製の三輪車椅子に乗りパレードに参加する人

写真右：踊りながらパレードに参加する人



#### NBSA 現地役員改選

現地のNBSA 役員の改選時期になり、以下のメンバーが選出されました。

役員改選について：現地では役員が2年ごとに変わります。再選も可能ですが、慣例として2年間は現地会長は視覚障がい者、次の2年は晴眼者という順番になっています。

現地新会長 プララダ タパ 男（旧副会長）  
副会長 シャラダ アディカリ 女（旧一般役員）  
事務局長 ヤダブ ダハール 男（変更なし）  
会計 ビソ アディカリ 男（変更なし）

以下 一般役員

オム プラカス 男（前々会長）  
シュレンドラ ガウタム 男（前会長）  
アルナ バスコタ 女 新人 NBSA ボランティア  
アドバイザー：ビレンドラ ポカレル 男 ネパール全国障がい者連盟会長  
現地コーディネーター：渥美資子 以上 今後ともよろしくお願ひいたします。

12月の話題：ネパール語点字の発明者 ボガティ先生死去  
カトマンドゥ盆地のキルティブルに大学付属の盲学校があります。そこにネパールの点字の創始者のボガティ先生が、家族と共にひっそりと暮らしていましたが、11月下旬、70代という若さで亡くなりました。追悼式などは今のところ計画されていませんが、多くのネパールの視覚障がい者に愛され、死去のニュースに涙した方も多かったようです。以前ボガティ氏について会報に紹介しましたので、部分的ですがここに紹介させていただきます。

2004年6月発行の会報誌 ネパールの働く仲間より

これまで「ネパールの働く仲間」では、様々な目の不自由な方々を紹介してきましたが、今回はネパールの視覚障がい者文化に多大な貢献をした先生をご紹介します。

ジャンガ・バハドール・ボガティ先生は、引退された後も、キルティブルのラボラトリースクールの校舎に住んでいます。この学校の女性教師を会報7号で紹介しましたが、ネパールの盲学校では最高学府と言われ、清楚で厳格な雰囲気漂います。先生にネパール語点字、誕生までの経緯をうかがいました。



私はネパールの山岳地帯セティ郡の出身で、1960年以来カトマンドゥに住み、視覚障害者教育の発展に全力を尽くしてきました。私は始めインドでヒンドゥー語の点字を学びました。これが点字との出会いです。その後、私は当時のネパール国王マヘンドラにインドから手紙を書き、盲学校の建設を嘆願しました。国王にその手紙が届き、私はネパールに召喚され、盲学校を作るよう任命されました。ネパール語の点字創作に着手したのは、その後からです。残念ながら誰にも手伝わってもらえず、インドの仲間の協力を得て完成しました。これまでの私の人生は、視覚障がい者文化の発展に注がれ、これという個人的な楽しみはなかったと言えましょう。しかし教育の普及こそ、我人生最大の喜びでもあります。

2010年1月：定例のカセットテープ事業と点字情報誌タッチ19号の発送

このところ、カセットテープを借りる人が減っています。今年の冬は一段と寒く、バスを乗り換えて事務所に来る人が減っているからです。NBSAの事業は定着し、日々の仕事も安定感を見せているのですが、天候や祭に左右され、月々の利用者数がまちまち。ボランティアも同様です。暖房設備などどこも不十分。しかし、訪問者が少ない12月から3月までは、少しゆとりを持って仕事が進み、点字情報誌の作成は順調でほぼ遅れなく配布しています。

1月4日：点字の発明者 ルイ・ブライユの誕生日を祝う

ネパール盲人協会が開催する恒例イベントです。今年はあまり意気が上がりず、点字の早打ちコンテストは参加者が11名と過去最低。昨年高校生で優勝したスシル・アディカリ君が、今年は大学生になり、またしても優勝。自由詩の発表は、女性の参加者が多く入賞しました。

### 事務所の営業の短縮と時間の変更

昨年よりかなり減ったことと共に、人件費の節約にあります。これまでの正規の職員をパートタイマーにし、ネパールの公休日、土曜日も開館します。開館時間は12時から午後4時までで、その間カセット本の貸し出し業務を行います。さらに、これまで事務所でボランティアに朗読をお願いしていましたが、今後、家や学校にパソコンのある学生ボランティアなどには、自宅で朗読してもらい、事務所で編集作業を行います。2010年新体制での出発ですが、ユーザーの方々に理解を求め、支障のないように頑張ります。今後ともよろしくご声援ください。

### 2010年2月：定例のカセットテープ事業と点字情報誌タッチ20号の発送

特別事業 2月13日に久しぶりの大型イベントをしました。

参加者：80名以上

NBSAの事業と親の会の紹介、それに日本点字図書館から多大な援助を受けて実現したネパール唯一の点字による定期刊行誌タッチの創刊20号を盛大に祝い、さらに昨年NBSAが出版した生活自立訓練の本の出版記念と配布を行いました。来賓もかなり大物で、ネパールの大統領顧問、ネパール最大の障がい者施設と学校の校長、視力に障害のある児童をもつ親の会の代表など。驚いたのは、来賓たちが最後まで席を立たなかったこと。閉幕の挨拶は新会長のプララダ・タパ。来客への感謝と共に政府の援助を求めました。

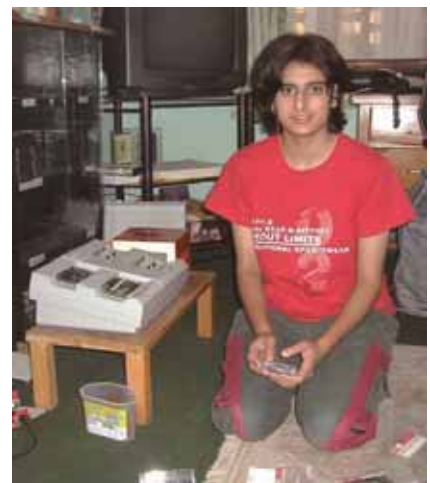
さて、ちょっとおかたい式典が終わった後が大変で、一部の参加者がなかなか帰らない。NBSAの利用者はヤング層が多く、この日は男子寮と女子寮の学生が多数参加。娯楽の少ないネパールではこうしたイベントは重要な出会いのサイト。ボランティアとNBSAの役員は疲れ果てて退散しましたが、彼らはいったいいつまで騒いでいたのでしょうかねえ。



### 私もNBSAのボランティア ルピナ・シャルマさん

ルピナさんは聴覚に障がいのある18歳の高校生です。秋の休みに何かボランティアして分の自分の視野を広げたい、ぜひお手伝いさせてくださいとNBSAに来ました。彼女にお願いしたのは編集したカセットテープのダビング。まず中古のテープの内容を強力な磁気で抹消します。それからダビングし、テープのA面に手製の点字シールを貼り、ケースに本のタイトルを書きます。この工程だけで20分。また、ルピナさんは利用者が来ると、室内に誘導したりお茶を出したりなど、とても機敏に働いてくれました。彼女はお話ができないので、初め利用者とのように接触するか戸惑ったのですが、お互いに触れ合うことで理解し合えるのだなあ、と感動していました。

瞬く間に2週間が過ぎ、別れ際に「とても楽しく、そして勉強になりました」という言葉を残してくれました。私たちにとっても大変有意義な2週間でした。



## 大国中国とインドに挟まれた小国ネパールは、どうして植民地にならなかったのか

トリブバン国立大学 政治学部教授 Khadga K.C., Phd.



ネパールはこれまで一度も植民地化されたことがなく、また、どこの国をも侵略していない独立国です。どうしてネパールは植民地にならなかったのでしょうか？ 今日ネパールの国立大学教授のカドガ先生にお話を伺いました。

まず、近代期のネパールの成立について説明します。

プリティビナラヤン・シャハ国王（在位 1742～1775）が国を統一するまで、ネパールは 24 の諸国に分かれていた。ガンダギ地方の小国ゴルカのシャハ王は大変な実力者で、内政、軍事、外交を整備し国力を養い、瞬く間にカトマンドゥの 3 都市、バクタプル、パタン、カトマンドゥ制覇した。その後、2 代目、3 代目のシャハ王の時代になると、ほぼ現在のネパールの国土を確保した。4

代目のときに、王朝内部で王位を巡りクーデターが起こったが、その時大いに手腕を發揮したのが、ビームセン・タパ宰相で、反対勢力を一掃。以後 31 年間政権を担当した。



インドの前進基地、英国による東インド会社の侵略の手が、ネパールに伸びたのは 1814 年。タライ地方のプトワルに戦火を交えネ英戦争が勃発。平原では優勢だった英国軍も山岳地帯ではまるで不利。ビームセン・タパ宰相はネパール軍の士気を高めると同時に、英国には清国のバックグラウンドがあるようにほのめかす巧みな駆け引きを行った。英国軍はそれにおののき、1816 年にインドのスガウリでネパールと講和条約を締結した。その代償はインド側のネパールの一部を放棄し、その代償として、英国は毎年 20 万ルピーをネパールに支払うことになった。それ以来、行使の交換が定められ、英国はカトマンドゥにレジデントを常駐することになり今日に至っている。また、チベットのラサとの関係も円満で、英国に対峙するインド軍を丸く収める

るにも手腕を發揮した。

ネパールを狙う英国、インドそしてチベットとのバランス・リレーションシップのとり方が、当時のネパールの政治家の優れたところ。では、現在のネパールの政治家はどうかといえば、正直言って失望することばかりです。なにせ、長期的ビジョンで政治を考えない。目先の個人的損得だけで、政治を動かしているのが混乱するのは当然です。また、民衆の間でも政治文化のレベルが低い。私は日本で、教鞭を執っていました。日本だと明治時代に留学した学生や教授を高官に迎え、国の発展に活かしたが、ネパールではいまだに年功序列や家柄を気にしています。こうしたフラストレーションが国造りのマイナス点になっています。

また、政治的な発展と共に、社会経済の発展も必要です。ネパールには遺憾ながら、政治と経済を同時並行的に考えている政治家が少なすぎる。いまだに懸案になっている新憲法は、いつ何時また変わる可能性も大きいでしょう。一番迷惑をこうむるのは国民なのですが。

ネパールは小さな国、そして多民族なので常に危険にさらされていると言えます。しかし、外国からの軍事介入などには、国民が一致団結して断固反対するでしょう。ネパールは、一度も侵略されたことのない独立国です。昔の人は、今よりずっと教育レベルも経済レベルも低かった。それでも、愛国心は強く、また、同盟と連邦主義を大切に守ってきました。今の政治家のように、些細なことで対立するのは、ネパールらしからぬ姿。特に、民族主義者の過激な活動には、十分気をつけなければならないでしょう。それを見極めるには、教育レベルの向上が必要だと考えます。ネパールは、国民のおかげ、また外国勢力のおかげで独立を保っているのです。そして、何よりネパール人はどんなに貧しくても、皆ネパールを愛してやまないのですから。

## 冬のインドひとり旅

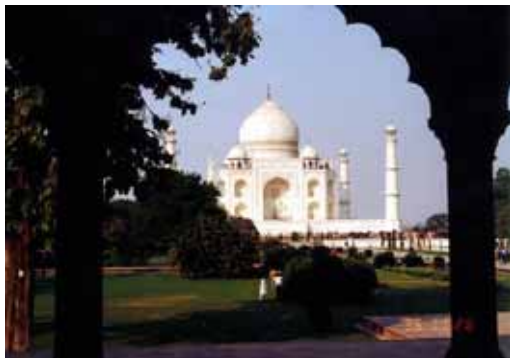
2009年12月6日から約1ヶ月私はインドに滞在し、その間に全インド盲人連合に寄宿し、盲人福祉協会などの施設を見学した。協会のスタッフは約40人、常に職業訓練などを受けている人や、寄宿している人は400人以上。ネパールでは考えられないほどのスケールの大きさ。うん、人口の多い国だと実感。



そこで私は調理などの講習を受けた。ネパールとインドは料理や調理器具が、とてもよく似ているのでなにかと役にたちそう。例えば、南ネパールでよく食べられているお好み焼きのようなチャパティの作り方、添え物の野菜、お茶の立て方など。ただし、インドの方がネパールより何でも味が濃く、茶葉などをたくさん入れてミルクで煮込む。このあたりは経済力の違いで、ネパールの方はなんでも節約している。調理器具はほぼ同じだが、ネパールの場合なんでも手加減。インドは日本ほど厳密ではないにしろ、形の違うさじやカップを使って教えている。少し驚いたのは、野菜などのクズを平気で床に捨てるのはネパールと同じ。火の扱いなどは、両国ともかなり大雑把でややショック。ちょっと失望したのは、生活自立訓練を教えている女性が、あまりに怠慢で仕事に熱意が感じられなかったこと。この人は、遅刻こそしないが、暇さえあればお菓子を食べながら自分のセーターを編んだり、おしゃべりをしていた。インドもネパール同様、仕事も生活もちょっと慣れると慢性化してしまうのだろうか。

(写真はインドの平焼きパン、チャパティをひっくり返すところ。フライ返しをうまく使えなかったら、チャパティをフライパンのすみに持っていき、手でさっとひっくり返せばいいのさ、と巨漢の訓練士のおばさんが言っていました。うん、なるほど)

この盲人連合はデリー市のはずれにあるが、毎朝大きなボタンインコや、なんとバサバサ音をたてて孔雀がやってくる。驚きのひと言。デリーはけっこう寒いのです。それでもやっぱり南の国で、



自然がまだたくさん残されている証拠。

研修の後、デリーに留学している盲学生の女子2人を伴って、白亜のタジ・マハルへ行った。あまりのやかさに唾然。ムガル帝国の栄華を誇る霊廟モスク。これはムガル帝国5大皇帝シャージャハンが、愛妻ムムターズの死を悼み、22年(1630~52年)かけて完成させた白大理石の霊廟。どうやら相当魅力に富んだ后だったようで、王妃の死後皇帝は霊廟の建設にあまりにかまけていたせいか、実の息子に囚われ幽閉されてしまった。皇帝は、自分の墓をタジ・マハルの対岸に黒大理石の墓を建設中だったが、それは見果てぬ夢。ロマンチックだったが、寂しい最後を遂げたとのこと。

は見果てぬ夢。ロマンチックだったが、寂しい最後を遂げたとのこと。

一ヶ月に及んだインドひとり旅の印象は、正直言って大変疲れた。何が一番疲れたかと言うと、人口過密で人息が絶えないこと。朝から夜までどこからか大騒音の音楽が流れてくるし、ホテルを一步出ると、客引きの三輪タクシーが待ち受けている。何をかうにもどこへ行くにも交渉連続。ネパールでも、外国人に吹っかけてくる輩がいるが、定価100円だったら、せいぜい130円と言ってくる。でも、インドの場合だったら、一気に200円と言ってくる。

それに、デリーの人々は声が大きい。ネパールから来た留学生のひとは、毎日の怒鳴りあいのような会話に相当疲れきっていた。私にとって3度目のインド出張訪問だったが、こうしてみると、インドに行くなら初めはツアーのパックで旅行し、それから一人旅に挑戦した方がよかったなあ、と感じてくる。 渥美 よりこ

昔、バクタプルとパタンとカトマンドゥの王が、ネパールの北にある聖なるゴサインクンド湖にそろって巡礼に行きました。湖はマハデブと言う神様が造り、彼自身もそこに住んでいると言われていました。マハデブ様へのお供えとして、バクタプルの王は石でできた雄牛の像を水の中に置きました。パタンの王は銅の雄牛を、そしてカトマンドゥの王は銀の雄牛を供えました。銅と銀でできた雄牛はすぐに水の中に沈みましたが、なぜか石の雄牛は湖の表面をただよっていました。



石が沈まない奇妙な光景に、バクタプルの王は他の二人の王からバカにされてしまいました。きっとお供え物が気に入らず、マハデブ様は受け取らなかったんだよ、と言われバクタプルの王は、恥ずかしさと不安にかられ、自ら湖に飛び込み、石の雄牛をしっかりと握ったまま水の中に沈んでしまいました。

残った二人の王はバクタプルの王が死んでしまったと思い、湖から立ち去ってしまいました。しかし、バクタプルの王は死んではいませんでした。王が湖の底にたどり着いてみると、すぐそば

にマハデブ様がいるのに気付きました、王は嬉しくて我を忘れ、ネパールの3人の王の中で一番幸運だと思いました。けれどもマハデブ様は、3人の王国はひとつにならなければならない、もし、いまのまま3つの国が分かれたままなら、遠からず他の王から支配されることになるだろう、とバクタプルの王を戒めました。

それでも、マハデブ様はバクタプルの王に祝福を与えました。その瞬間、王はバクタプルの池のほとりに立っていました。しかし、この王はマハデブ様の警告に無頓着で、パタンとカトマンドゥの王にマハデブ様の警告を伝えることさえしませんでした。

3人の王の間では、相変わらず悪口の言い合いやケンカが続き、とうとう3つの王国はゴルカの王に征服されてしまいましたとき。

うーん、なかなか味のある民話ですね。カトマンドゥ盆地にある三都市は、事実上 1769 年にゴルカからやってきた王に滅ぼされ、2008 年のビクラムシャハー、ギャネンドラ国王が民衆によって追放される 2008 年まで支配が続いたのです。

## 編集後記：金のなる木



ひたすら、もくもくと緑の分厚い葉っぱをつけているだけの植物。なんだか下品な感じですが、反面とても魅力的な名前。金のなる木が花をつけるのはとても珍しいそうです。いったい誰がつけたのでしょうか。何となく5年前から我が家のテラスにほって置かれた金のなる木が、2月の陽光を浴びてついに花を咲かせました。2010年初のNBSA会報には、縁起のよい植物がもしれません。皆様の絶大なご支援賜りますよう、祈願しました。今年もよろしくお願いいいたします。カトマンドゥの渥美より

## 事務局だより 日本事務局担当 高梨恵司

景気の低迷と深刻な就職難は未だトンネルの向こうが見えない状況ですが、季節だけはようやく春を迎えました。会員の皆様にはお変わりございませんでしょうか。何時もNBSAの活動にご支援を

いただき、心より感謝申し上げます。季節の春のように、心だけでも明るく前向きに進みたいものです。今回は下記のような新年度総会に向けた対応策について役員にお図りする必要があったために、会報の発行が遅れ、申し訳ございませんでした。ご理解をいただければ幸いです。以下に役員会の決定と事務局からのお願いを述べさせていただきます。

### 1. 総会に向けた対応策

現在、新年度の総会は毎年の4月に開催していますが、日本事務局を担当している視覚障害者総合支援センターちばの新年度の準備および決算と時期が重なり、非常に多忙なため、昨年の総会において、「事務局の負担を軽減する観点から、2010年度の総会から6月に開催する」ことが決まりました。しかしながら正式な会則の改正が行われていません。また、総会が6月に変更されることから、2010年4月～6月の間の役員の任期と予算執行が空白になってしまいます。これについて昨年の総会では「会長に一任する」こととされましたが、渥美会長から下記のとおり会則の改正案が役員会に提出され、可決されました。なお、正式な会則の改正は次の総会で行われることとなります。

### 2. 会則改正までの暫定的な対応

会計年度の変更：2010年度より会計年度を7月1日～翌年6月30日とする。これに伴い、2009年度の会計年度についてのみ、2009年4月1日～2010年6月30日の15ヶ月とする。

会計年度の変更に併せて、役員の任期も2010年7月1日～翌々年6月30日とし、現役員の任期を2010年6月30日まで3ヶ月延長する。

会計年度の変更に伴い、新年度予算が決定するまでの本年4月1日～6月30日の間の日本および現地事務局経費について不足が生じた時は、その不足分を新年度予算の前倒しとして執行する。

### 3. 事務局からのお願い

#### 役員の改選について

本年6月は役員の改選時期に当たります。役員の改選手続きについては特段の規定はありませんが、現役員でやむを得ない事情により退任されたい方、新たに役員に立候補くださる方および推薦がございましたら、本年の5月末日までに会長にお申し出ください。

#### 会費の納入について

3分の1ほどの方が2009年度の会費未納になっています。厳しい経済情勢の下で督促するのは誠に恐縮なことですが、現地ネパールの方々の涙ぐましい状況を考えると、何とか応援しなければと考えてしまいます。どうぞ無理のない範囲でご協力をお願いいたします。振込取扱表を同封させていただきましたので、今年度の会費については3月の末頃までにお願ひできれば幸いです。既に納入済みの方におかれましては、新年度の会費納入にご使用ください。

## NBSA総会と報告会のお知らせ

期日：6月19日土曜日正午～

場所：千葉県柏市松葉町6-8-1 青山第一ビル3階 カルチャー&ギャラリー花野井坂

詳しくは総会案内でご連絡します。総会と報告会の後に懇親会も予定。ぜひご参加ください。

Nepal Blind Support Association (NBSA)

P.O.Box:8974 PCN-111 Katmandu Nepal Tel:977-1-4425-709

E-mail: [NBSA@mail.com.np](mailto:NBSA@mail.com.np) または [yorikonepal@hotmail.com](mailto:yorikonepal@hotmail.com)

日本の事務局:

〒284-0005 千葉県四街道市四街道1-9-3 視覚障がい者総合支援センターちば内 NBSA

電話:043-424-2501 Fax:043-424-2486 事務局担当者 高梨 憲司

NBSA HP:<http://NBSA.sakura.ne.jp/>

維持会費：個人会員年間6,000円/協力会員年間3,000円/法人会員年間15,000円

振込先：口座記号番号00190-7-762775 (ネパールの視覚障害者を支える会)